

○目的

①平成30年における7月豪雨、台風第21号時の住民避難行動を検証し、②水害、土砂災害時における要支援者を含めた住民避難行動の向上方策を検討するため、「災害時における住民避難行動に関する検討会」を設置(平成30年11月。座長:矢守克也 京都大学防災研究所教授)

○いのちを守る5つの提言(風水害対象)・提言を踏まえた取組等

提 言	取 組 内 容	今後の施策の方向性
I 自分のいのちを自分で守るため、一人ひとりが「逃げるタイミング」(避難スイッチ)を地域とともに考えよう。	住民は、平時から自らの「逃げるタイミング」(避難スイッチ)を考えておく。	1 住民自らの逃げるタイミング、逃げる場所等確認の促進 2 地域で避難行動(逃げるタイミングや逃げる場所等)の検討を支援する人材の養成
II 一人ひとりが自分に適した「逃げる場所」を地域とともに考えよう。	住民は、平時から自らの「逃げる場所」を複数考えておく。	
III 実効性のある避難行動要支援者対策の取組を進めよう。	①住民は、親戚宅等の身を寄せやすい安全な場所への避難も検討 ②行政は、個別支援計画の作成を促進 ③行政は、要支援者本人に加え、福祉部門の行政職員や支援者の災害対応能力の向上を図り、関係者間の連携に努める。 ④行政は、避難先の環境や体制の改善を検討	3 避難行動要支援者対策の推進
IV 個人・地域・行政が連携した取組を進めよう。	行政のほか、住民や自治会・消防団等が、それぞれの役割にとらわれることなく連携して、逃げるタイミングや避難先の判断などを行い、速やかな避難を図る。	4 地域における防災リーダーの養成や消防団の活性化
V 行政は、住民や地域の主体的な取組を支援し、適時適切に情報を提供しよう。	①「マイ避難カード」の作成支援 ②「ひょうご防災ネット」アプリ、緊急速報メール、ホームページ等の一層の活用 ③自主防災組織や消防団が行う訓練・研修等を支援 ④自治会、消防団等による住民への避難呼びかけの制度化・ルール化の推進 ⑤国が検討している、土砂災害等の危険度分布とハザードマップの重ね合わせ情報など効果的に避難を促す新たな情報を活用 ⑥激甚災害発生のおそれがある時、首長自らが住民に避難行動を呼びかけ	5 住民への避難情報や防災気象情報等の発信強化

【避難行動(安全確保行動)の大原則】

「自分のいのちは自分で守る」(わがこと意識の徹底)

【避難行動の留意点】

- ①避難行動は、「リスク認知」→「判断」→「行動」の順に進む。
- ②「水平避難」「垂直避難」のほか、安全な場所にとどまる「待避」が有効な場合がある。
- ③平時から、自らの「逃げるタイミング」を考えておくことが重要
- ④指定緊急避難場所に加え、万一に備え、セカンドベスト、サードベストの避難場所の事前設定が重要

避難行動	内 容
水平避難	自宅等から立退いて、安全を確保できる場所(指定緊急避難場所、親戚や友人の家等)に移動する。
垂直避難	自宅等屋内の2階以上の安全を確保できる場所に移動する。
待 避	状況や安全を確認し、自宅等の居場所にとどまる。

「災害時における住民避難行動に関する検討会」最終報告概要(案)

○ 避難行動の向上に向けた「マイ避難カード作成支援モデル事業」の実施

【モデル事業の概要】

自然災害時に、住民が主体的な避難行動ができるよう、住民一人ひとりが、自らの「逃げるタイミング」や「逃げる場所」などを予め決めておく「マイ避難カード」を作成する事業を、県内10市町で実施
※10市町…神戸市、芦屋市、三田市、明石市、太子町、佐用町、豊岡市、新温泉町、洲本市、南あわじ市

「マイ避難カード」とは、

災害の危険が迫っている時に、「いつ」「どこに」「どのように」避難をするかをあらかじめ自分で確認、点検し、書き記しておき、自宅内の普段から目につく場所に掲出するなどして、いざという時の避難行動に役立てるためのカード



有識者による「避難の必要性」の説明



「まち歩き」により危険箇所を確認



「マイ避難カード」を作成



「マイ避難カード」を用いた避難訓練

【モデル事業の流れ】

STEP 1 マイ避難カード作成ワークショップ

- 集落・自治会・マンション等で開催
- 有識者等が、災害リスク、災害情報の取得方法や見方、とるべき行動等について説明
- まち歩きを行い、危険箇所、避難経路等を確認
- 逃げるタイミング、逃げる場所、避難方法等を話し合い、マイ避難カードを作成

STEP 2 実践的な避難訓練

- 作成したマイ避難カードを活用した避難訓練を実施し、適時適切な避難が可能か検証

STEP 3 出水期の実践・検証

- 出水期において、マイ避難カードを活用した避難を実践・検証

【検討会での意見】

■「マイ避難カード」について

- ・住民自らが、平時から、「逃げるタイミング」や「逃げる場所」等を考えておくことが重要で、これらを考えて「マイ避難カード」に記載する取組は有効
- ・「マイ避難カード」を作成するうえで、ワークショップの取組が有用
- ・今後「マイ避難カード」を県内市町へ展開していくことが望ましい。
- ・今後の普及にあたり、「マイ避難カード」作成のアドバイスやワークショップでのファシリテーター役など「マイ避難カード」の取組を支援する人材が必要

■逃げるタイミングの検討

- ・行政からの避難情報に加え、地域の状況を加味して「逃げるタイミング」を決めることにより、避難意識が高まることもある。
- ・災害が激甚化するなかで、これまでの経験則のみではなく、気象庁の防災気象情報や行政の避難情報などを避難の判断材料にすることが必要

■逃げる場所の検討

- ・避難する「ベストなタイミング」を逃した場合も想定し、「逃げる場所」は1つではなく、「セカンドベスト」「サードベスト」の避難先を記載しておくことも有効
- ・浸水などで災害リスクが低い人は、自宅等に留まる「待避」や、2階以上に避難する「垂直避難」が有効な場合がある。必ずしも全員が避難する必要がないことを周知することが必要

【参考：モデル事業参加者のアンケート結果(6市町153名より回答)】

